

平成25年度 地域懇談会

平成26年2月23日(日)

午後1時30分～3時15分

中央公民館2階 視聴覚室

1. 「参加と協働の約束に基づく制度施行規則」第27条による課題

子どもの安全・安心を守る

2. 対象地域

中地域(余野・垣田・さつきヶ丘)

3. 懇談会パネリスト(9名、敬称略)

伊神英臣、田中英郎、近藤喜昭、古川建治、武田静雄(以上、中地域自治組織推薦者)

大口西小学校長 岩田和敬、大口町長 鈴木雅博、建設部長 野田 透

地域協働部長 鵜飼嗣孝

4. 懇談会進行

副町長 大森 滋

5. 司会進行

地域振興課長 佐藤幹広

【司 会（佐藤地域振興課長）】 皆さんこんにちは。

皆様方には、大変お忙しい中ご参集いただき、誠にありがとうございます。ただいまから地域懇談会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めます地域振興課長の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。この地域懇談会は、まちづくり基本条例の規定にもとづき、町長がまちづくりの担い手とともに、大口町のまちづくりについて意見交換をする場として開催するものです。

今年度は「子供の安全・安心を守る」をテーマに、特に登下校時における子供の安全・安心について意見交換をさせていただきます。

今回の地域懇談会では、子供たちの登下校を中心に話を進めさせていただきますが、子供たちの安全・安心を守る取り組みは、高齢者や障害のある方のみならず、多くの方にとっても安全・安心で優しいまちづくりにつながるものと考えます。50年後も大口町が安全・安心なまちであるために、今のありようを見詰め直して、次の世代へつないでいく第一歩としたいと考えております。

これから、地域・学校・行政のそれぞれの取り組みについて御紹介をいただくとともに、現状における課題・問題点を共有し、皆様から御意見、御提案をお聞きしながら、今後の進むべき方向について一緒に考えていきたいと考えております。

ちなみに、中地域では、余野、垣田、さつきヶ丘を合わせ、総勢114名の西小校区安心パトロール団の皆さんに登下校の見守りをしていただいております。本日は、中地域自治組織からの御推薦を受けて、パネリストとして御出席をいただいておりますので、御体験に基づいた貴重な御意見がいただけるものと期待いたしております。

それでは、パネリストの皆さんを御紹介いたします。

〔パネリスト紹介〕

【司 会】 以上の9名でございます。

それでは、副町長の大森滋を座長に、座談会方式で意見交換を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

【座長（大森副町長）】 皆さん、こんにちは。

今、紹介をいただきました副町長の大森でございます。

きょうは、子供の安全・安心を守るというテーマで、パネラーの皆さんから報告をいただきまして、その後、取り組みについての意見交換を行っていきたいと考えております。場合によっては、会場の皆さんからも御意見、お話を伺いたいと、こんなふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まずパネラーの皆さんから、それぞれ発表をお願いしたいと思います。

最初に、近藤さん、よろしくお願いいたします。

【近藤喜昭氏】 先ほど紹介にありました近藤でございます。よろしくお願いいたします。私のほうから、きょうの順番のほうを少し話させていただきます。

私、きょうは子供の安全・安心というテーマでございますけれども、同じようなテーマ

になってまいりますので、私は中地域の全体の取り組みについてお話しさせていただきまして、古川のほうから自転車の安全教室についてお願いをいたします。続いて田中さんのほうでございますけれども、登校時のことについて話をさせていただきます。そして、向こうにおられます伊神さんから、下校時の子供たちについてお願いをいたします。そして、武田さんのほうからは、少し視点を変えて、どういうふうに見ているかというようなことで、総括的にもお願いをしておりますので、よろしくお願いをいたします。

私どもがこのまちづくりの関係を始めましたのは、大口町のまちづくり基本条例に従って始めました。その中で、権限と財源を移譲するという大きな項目がございますので、このことについて少し話をさせていただきたいと思います。

まず権限でございますけれども、権限は、先ほど申しましたように、まちづくり基本条例に従ってやりました。その中に、大口町中地域自治組織の規約というのを発表いたしました。

経過でございますけれども、24年4月、ですから2年前になりますけれども、まちづくりの準備委員会を発足いたしました。そして、少し飛びまして、いろいろ話を積み重ねる中で、ここで何をやっているかということをごさきん方（ごさきん）に知らせるために、かわら版をまず発行いたしました。それがちょうど1年前になります。こういうことを重ねながら、徐々に規約が固まってまいりましたので、6番目でございますけれども、昨年の7月28日に中地域自治組織の設立総会をしたわけでございます。そして、役員等が集まりまして、8月からどんな取り組みをするかということについて、いろいろ話をしてまいりました。

とりあえず何ができるかということをごさきん（ごさきん）を考（かん）えまして、現場から机上へ、机上から現場へという物の考（かん）え方から、とりあえず現場のほうからやろうということになりました。とりあえず実験的な取り組みをするということで、自転車教室を始めたわけでございます。その実験的な取り組みがうまくいくかどうか、これを反省と改善を重ねまして、次に取り組みのスキルアップを考（かん）えたわけでございます。

先ほど申しましたように、権限と財源をとということでございまして、自転車教室をするんだけれども、ただではできん。お金がなきゃできんじゃないかと、いろいろと話がありまして、財源を移譲するということが基本条例の中にございましたので、どうやって財源をいただけるかということで、11月23日に自転車教室を行うわけでございますけれども、その間にも、お金がないな、天から降ってこんなということで、隣のお宮さんへ行って願をかけてきましたけれども、なかなかお上からお金が参りません。

それで、実は財源のほうがないと動きがとれませんので、とりあえず財源については25年、26年度は協働委託事業として行うということで、財源をいただくようになりました。

そういうことで取り組みを考（かん）えたときに、先ほど言ったような取り組み方法をしてまいりました。

そして、どういう事業をするかということでございまして、事業は5つ考（かん）えております。

1つは次世代を育む部会と、それから安心・安全をつくる部会、安心と活力をつくる部会、元気なコミュニティーをつくる部会、地域で情報の共有をつくる部会。この5つの部会を考えておりますけど、現段階におきましては情報を発信するための部会と安心・安全をつくる部会、この2つをやっと立ち上げたわけでございます。

4ページがございまして、時間となりましたので、とりあえずここで切らせていただきまして、後のときに4番目については報告させていただきます。途中ですけど、これで私のほうは終わらせていただきます。以上です。

【座長】 ありがとうございます。

それでは続きまして古川さん、よろしくお願いいたします。

【古川建治氏】 今、私どもの会長の近藤が、中地域の自治組織の取り組みということも含めて、自転車教室をやろうということになった内容、それから開催当日の内容とか、ここにも書いてありますように、今年度の反省の中で取り組みをどういうふうに生かすんだという中で、拙い説明とか発表になるかもしれませんが、ちょっと私の声を聞いていただきたいと思います。

この自転車教室というのは、昨年の24年の夏休みのときに、さつきヶ丘区で小学生、高齢者を対象として初めて自転車教室というのが開催されました。そのときには、余野と垣田の各一部になります、そういう方も参加されましたよという話を聞きまして、先ほどスクリーンに出ました、まず実験的な取り組みということ、それから現場でまずやってみて、その中から皆さんの意見、声を吸い上げたいという中で、あくまでもこの自転車教室というのは、できるかできないかという部分もございました。

というのは、これが自治組織で決まったのが、8月の中旬ぐらいから始めていったものですから、これは秋口までに開催をせないけないなという中で、非常に短期間の準備期間しかないなということで、実行部隊も本当にできるのかどうか。というのは、余りにも時間がないんじゃないかということで、その辺はちょっと行動が鈍った部分もありましたんです、一応やってみようかと。その結果の中には、皆さんの声が聞こえるかもしれないと、こういう内容の中で進めました。

特に、準備期間が短いことによって、今回やる会場の皆さん方、それからパネラーの方もお見えになりますけど、大変御迷惑をかけたよということが、まず私の気持ちの中には非常にございまして、というのは、もう2カ月あるかどうかの準備期間ですので、本来であれば、まず児童側のお世話をする子ども会の役員の皆様方、ここに開催日等を調整しながら進めていって、それにあわせて指導側である江南警察署の方、それから会場は西小でやるということで決めていましたから、西小の先生方、この辺のコンタクトがとれるかどうか心配でございましたけど、進めないけないということで事に当たったわけなんです。

そういう中で、11月というのは非常に子ども会の行事も多くありまして、幾ら指導側、会場側がいいよということで子ども会さんのほうの役員さんに当たったら、行事があるでだめ、だめというので二転三転しまして、結果が11月23日土曜日、こういうことになりました。

した。そのときを思い出しますと、ああどうにかできるんだという形の記憶をしております。

ですから、ここでもまず反省材料というのはございます。大変、指導者、小学校の校長先生、教頭先生、それから関係者の子ども会の皆さん方、この方らには大変御迷惑をかけたんですが、どうにか11月23日、スタートができたということで、きょう受付で私どもが発行しておりますかわら版7号ですけど、ここに自転車教室を開催したよという内容が写真入りで出ておりますので、参考までに見ていただきたいと思います。

そして、当日、ここにも書いてありますように、非常にすばらしい秋晴れに恵まれまして、準備期間のごたごたしたことが非常にさわやかな気持ちで迎えられたわけなんですけど、この日、来賓挨拶でちょっと予定しておったんですが、鈴木新町長、その当時、新町長ということで、それから丹羽議長さんという部分で予定しておったんですが、これもまた町の式典と重なりまして、終わりごろ大森副町長さんがお見えになってちょっとお話ししたようなことで大変残念だったんですが、当日、江南警察署の皆様方と、それから2人ですけど、それでは少ないということで、この辺も江南警察署のほうから紹介していただいた県の交通普及所の講師の方、それから体育館では名鉄自動車学校の教官の3名の方、こちら辺は全部江南警察署の方のお世話になりまして進めることができました。

当日については、グラウンドで江南警察署、交通普及員さんの御指導で実践教育、今ちょうど写真が出ておりますけど、自転車を構えてみえる方、今乗ってみえる方ですが、この人が江南警察署の婦警の方です。そして、ハンドマイクで、左側の方が県の交通普及員の講師の方でございますが、まずここがスタート地点です。スタート地点から、どういうふうに走行するんだということで、走行ルールの注意事項を述べてみえます。今、婦警の方が自転車に乗られました。これから全コース、各ポイントがございます。見通しの悪い交差点とか、散策路とか、障害物の車がおったり、踏切があったり、それから信号機があったりという、こういうコースでのポイント点を進んでいくわけです。

ということで、この女の子の後ろにおる方が係員ということで、その係員もルールなんか知らんと思うんですが、出発前に講師の方に指示を受けて、このポイントではどういうふうに指示しなさいよということを受けておりますので、にわか仕込みですが、指示ができる体制にしてありますということです。

こういうスラロームの状態もセットしております。

これはスラロームを終わった状態ですね。

これは、踏切のところですね。踏切のところで停止して、これは停止するのが、かなり線路にかかっておりますけれども、停止して、ここで走行ルールとしては、私も初めてなんですけど、これは踏切で、自転車をおりて歩いて渡っていくんですよと、こういう指示を交通指導員の方がやってみえますという意味での1こまでございます。

先ほどの話が中断で写真になっちゃったんですけど、体育館の中で、右側のところに自転車をこぐサドルがありますね。これを、スクリーンを見ながら停止したり、こいだりす

るわけでございます。

左上が、このスクリーンでございます。右側に児童が運転をしております。直進する格好になっておりまして、これは気候条件の中でコースが設定してありまして、これは曇り、夕方ぐらいの状態をセットしておると思いますので、その状態も、天気の良い日、雨の日、それからこういう夕方、ちょっとどんよりしておる日とか、そういう気候条件も4項目ぐらい分けて、右側の児童がそういう中で運転していくよというスタイルの風景でございます。

そういうことで、児童といたしまして、やった結果というのを私どももちょっと聞かせていただいたんですが、終了後、尾北ホームニュースの記者の方が取材に見えていまして、それで私も耳にしたんですが、その児童というのは2名ぐらい、取材を受けておりました。大体、同じようなことを言っていたんですけど、一時停止線のあるところは、まず確実に停止をするということ。それから、先ほどちょっと言いましたように、踏切では自転車をおりて渡って歩くんだよと。これがどうも自転車の正式ルールらしいんですけど、そういうことを覚えまして、こんなようなコメントを聞きまして、なるほどこれなら、この自転車教室をやったということについて、よかったなあと。これは、あくまでも自画自賛でございますけど、それでも先ほど言いましたように取り組みの中に、現場、それから机上という意味で、現場の中の自転車教室というものを1回、この自治組織でやったということは、今後の行事に役立つんじゃないかというように思います。

それから、最後になりますけど、最近皆さん御存じかもしれませんけど、中日新聞の県内版で、御存じのように愛知県は死亡事故ワースト1ということでございますけど、それに対して、自転車の悪い例というのが載っておりました。

1番目として、見通しの悪い信号機のない交差点では、確実に一時停止をしてくださいと。2番目に、歩道上で我が物顔みたいな運転をしておるという例も出ておりました。その例としては、特にスマホとか携帯電話を使用して乗っている方、また小学生なんかが多いんですけど、2台以上の並列走行ですね。これは、歩道上においては歩行者優先ですので、こういうことはやめてくださいと。ただ、県警もそこら辺のところは何にも規制義務がないから、お願いという格好みたいらしいですけど、そんなような内容が出ておりました。

今後、私どもが自転車教室というのは、この小学生の5年生、6年生を対象にしてやるのは、今後も継続してやります。そのほかにお母さん方、それから高齢者の方、この方らも自転車を利用される機会が多いということで、この辺も声を聞く必要があるのかなあと考えております。この辺は、懇談の場を設けて直接聞こうと考えております。これを今後の事業活動に生かそうと思っています。

本当に最後になります。時間延長して申しわけございません。この会場にお見えになりますけど、特にボランティアで御協力していただきました皆さん方、交通普及員の方が素晴らしいコースをつくってくださったよとお褒めいただいた体育協会の余野の4名の方、

それから警備員をやっていた2人の余野の方、それから行政ではやはり主管課の町民安全課さんではいろいろとお世話になりました。それから、西小の校長先生が見えますけど、本当にいろいろと御苦労さま、ありがとうございました。

以上、拙いんですが、終わらせていただきます。以上です。

【座 長】 ありがとうございました。

それでは、続きましては田中さん、よろしくお願いします。

【田中英郎氏】 それでは、余野区の余防隊が活動しております登校時の交通安全について、簡単に紹介させていただきます。また、課題等も後に述べさせていただきます。

我々、余防隊といいますのは、平成15年の10月に発足いたしまして、去年の秋、10年になったところでございますが、当時は30名ぐらいの体制でスタートいたしました。そして、余防隊といいますのは、余野防犯パトロール隊ということで、その頭文字を取って余防隊。これは、あらかじめ防ぐという意味も含めて余防隊ということでやっておるわけですが、活動は、パトロールはもちろんのことですけれども、ごみ拾いとか、それから町内の巡回バスの停留所にプランターを置くとかやっていますが、この登校時の交通ガードということにつきましては、平成20年の7月にスタートいたしました。現在ではほぼ5年半ほど経過いたしますけれども、こんな表で恐縮でございますけれども、現在、会員が24名でございます、そのうちの17名が4つの箇所に分かれまして、大体4人、最後は5名ありますけれども、こういう担当で、毎週木曜日の朝7時40分から30分程度でございますけれども、平成20年の7月から現在に至っております。

この4カ所といいますのは、一番右側に小さくちょこちょこ書いてありますけれども、一番登校児童の多いところは一番下にあります徳林寺ですね。この徳林寺のずうっと南下しました横断歩道。それから、ずうっと南へ行きますと、下から2つ目になりますけれども、ヴォルテージという自動車屋さんがありますが、あの押しボタン式の横断歩道がございます。これはまだ最近設置されたところでございますけど、そこ。それから、3つ目に多いのが、一番上に書いてあります、東のほうへ行きますと、サークルKのあそこの大きなTの字の交差点がございます。それから、余野の学共の南というんですか、西というんですか、あそこの横断歩道。この4カ所につきましては、登校時に17名で木曜日に30分ほどやっているということでございます。先ほど言いましたように、5年ちょっとたちましたんですけれども、おかげさまで特段の事故も何もなく、現在に至っております、大変よかったなあというふうに思っているところでございます。

この表はこんなことでございますけれども、こういう活動を通しまして、ちょっと感じた、課題と言うと大げさですけれども、述べさせていただきますと、こういう登校時にしましても下校時にしましても、私だけが知らないのかもしれませんが、いわゆる父兄の方と、それから学校と我々ボランティアと、この3者というのが共通の情報を共有して持って、そして協働してやっていくという、そういう体制が必要じゃないかなあと。

正直言いまして、私、こういうガードで立っております、変な言い方ですけど、父兄

の方々の顔が余りお見受けしない。時にはお見受けするときもありますが、そのあたりがどうなっているのかなあというふうなことを感じるわけでございます。

それから、2つ目としまして、小学生、いわゆる児童の側に立った、車側に対する車側の交通ルールですね。そういうことも、児童というのにもう少し何か教育推進したらどうかなあと。もちろんやっておられると思いますけれども、子供たちは運転免許証を持っていません。それから、お年寄りでも持っておられない方があります。そして自動車と。この3者が同じ平面上で動いているわけです。そうすると、お互いの基本的な交通ルールだけは、やっぱりちょっと熟知していないと、子供は最優先である、ガードしてもらって横断歩道を渡る、これも結構です。別にそれをどうこう言う気持ちは毛頭ございませんけれども、やはり子供たちに車側の基本的な交通ルール、道交法ですね。そういうことももう少し徹底をして、認識を深めさせたらどうかなあというふうにも思っております。

それから、今言いましたように、子供優先でございますけれども、我々ボランティアも、やはり横断歩道なので赤、青という、それに従って動くことはそのとおりなんですけれども、私はサークルKのところの担当をしております、横断歩道は東西にあるわけです。そうして、車は西から来まして、南へ回るもの、右折、左折ですね。そこの横断歩道を渡らなきゃいけないということになりますと、信号がすぐが変わっちゃうんですね。ですから、私はあそこを横断する児童たちには、早く一固まりになって渡ってよと。じゃないと、青の信号がそれで終わっちゃうんですね。そうすると、右折する車が回り切れないということで、別のところでもかつて運転手との間にトラブルがあったというふうに聞いております。

私は、先日のときもそういうところを渡る前に「はい、固まって渡ってくださいね、渡ってよ」と言うんだけど、なかなかそうはいかない。縦にだあつと長くなっちゃう。途中でこの間はストップしました。次の信号まで待つ、今、青だけストップと。で、自動車の右折車に通ってもらいました。その場でやっぱり話ししました。この信号というのは、自分たちだけが十分に使って渡る、そのとおりなんですけど、そうじゃなしに車も待っていてもらうんだから、やっぱりそういうこともよく考えることが大事だよということを言って、ふんふんというふうに聞いておってくれましたですけれども、やはり子供たちにもそういうことを認識させて、そして我々も子供最優先じゃなくて、やっぱり車との共存ということにおいて、ひとつ誘導するということが大変重要じゃないかなあと。

それから、これは何もこの交通ガードに限らずでありますけど、「おはよう」と言いかけても返事してくれないです、なかなか。本当にわずかです。別に「ありがとう」までも言ってもらわなくて結構ですけど、「おはよう」ということを言ったら、「おはよう」ぐらいは何とか言ってくれたら。それは、もう学校の先生方、口を酸っぱくしていろいろ指導しておられると思いますけれども、なかなか現実を見ますと、これはボランティアという立場からいきますと、やりがいにつながる問題だなあということはちらっと思えます。

最後でございますけれども、今まで5年半ほど、事故もなく過ぎてまいりましたけれど

も、下校時のことも含めて、その過程において、子供の列に車が突っ込む、事故が起きた。さあ、どうする。その対応と責任の所在ですね。どうなっているかなあということを時々ふっと心配になります。

ですから、このことは会社員の場合も、出勤時のときに事故が起きたら労災になるか、ならんかとかということと似ている部分もあるかと思いますが、そういうことも一つ解決していかなくちゃならん問題ではないかなあというふうに感じております。

現状を、簡単でございますけれども述べさせていただきました。ありがとうございました。

【座 長】 ありがとうございました。

それでは、続きまして伊神さん、よろしくお願いいたします。

【伊神英臣氏】 さつきケ丘の伊神といいます。よろしくお願いいたします。

私のほうからは、地域の安心・安全のための取り組みの一環として、さつきケ丘区西小校区見守り安全パトロールの取り組みと児童の対応等について、御報告させていただきます。

さつきケ丘では、以下のように取り組んでおります。

西小校区見守り安全パトロールを引き継いだ21年ごろは、パトロール隊員のメンバーが少ないために、月に4回から5回、週にすれば1回から2回の当番日がありました。当番日が終わるまでは、ほかのことができなくて、また当番日の時間を間違えないかというような、思いのほか気苦労が絶えません。そこで、団員がふえれば当番日の回数が少なくなりますので、新たに団員を募集するに当たりまして、平成22年の4月からは、月1回当番をしていただくことを条件に、各家庭にお願いに参りました。月1回だけならということで、現在では56名の方にパトロールをお願いしております。中でも、最高齢者は85歳の方でございますが、非常に元気な方です。といいましても、高齢のことを配慮しまして、春先、秋口の比較的温暖なシーズンに当番をお願いしております。団員が56名になりますと、当番日は年に7回から8回となります。おかげさまで団員の負担が軽減されました。月1回の当番ができなくなるぐらいということになりました。

これからも、こうした取り組みについて、区民の皆様に御理解と御協力をいただきながら、一人でも多くの参加を呼びかけていきたいと考えております。

パトロールは、2人ペアで行います。最初は、同じ区に住んでいながら日ごろ顔を見たこともない方とペアになることもあり、こうした出会いを通じて地域のあらゆる活動と地域の結びつきにつながり、人と人との結びつきにも大いによい結果を生んでいると思っております。夜間パトロール団員70名も、同様の効果が出ております。

それから、第2としまして、団員さんに無理な日程は押しつけません。

今、パネルに出ておりますけど、まず翌月の当番を決める前に、例えば今は1月の予定ですが、きょうが12月としますと、1月の日程調整表というのを皆さんにお配りします。何月の何日は何時の下校時間ですよということを、大体、月の17日ごろに西小へ行きます

と先生から予定表をいただけます。それをいただいて、この日程を、1月7日は下校時間が15時5分ですよということがわかりますので、そのときは1年から4年ですよということを書いた書類をいただけます。これを配ります。そうすると、皆さんが、無印は活動してもいいですよと、丸印はできればこの日が一番いいなあという日、ペケは、絶対この日は結婚式や法事などいろいろあってできませんから、ここは絶対当番を入れてはいけませんよということをここへ書いてくれます。そうすると、例えば8日の1・2年のときに、私が丸印を打ったとします。これだけ丸印が打ってありまして、この日とこの日がペケですよという、ペケは絶対予定を入れません。できるだけ丸印を打ってあるところで皆さんの組み合わせをしていこうということでやっています。

万一、これが丸印を打ったところがダブっちゃって、どうしても10日の無印のところしかいかんという場合は、事前にもう1回電話を入れまして、この日は丸印を打っていないけど、この日来てくださいよということまでやっております。

そして、これが出てきますと、今度日程調整表というのが、これを配りますと団長さんのところへまたこれが戻ってきますから、班長さんがこれを団長さんのところへ持っていきます。そうすると、団長がこれに基づいて日程調整表をつくるわけです。先ほど私が1月8日にいいですよと丸を打ってあったもんですから、ここへ名前を入れていくと。それで、皆さんのやつをここへずうっと入れて調整して、この決めたものを各団員さんにお配りしております。そういうようにして、絶対団員さんに無理のかからんような予定をつくっております。

それで、この日程表を作成しまして、日程が決まりまして、3日なり4日前に急に行けなくなったという場合は、団員さん同士でやりくりをしていただいて、この日行けなくなったので、かわりにあんたやってよといって調整をし直していただいて、穴があかんようにしております。

それから、当番が終わりましたら、腕章とか旗とか、交通安全のベスト等が入ったかばんを次の当番の人へ持っていきます。これは大したものじゃないんです。このかばんです。このかばんの中には、安全・安心のベスト、それから腕章、旗が入っておるんです。ここへ入ったのを、あすの、例えばAさんならAさんのところへ持っていきます。そうすると、Aさんがあした自分の当番だったなあということを再確認できまして、まず忘れることはないです。

ここに地図と団員の名簿が入っています。そうすると、団員さんが、全く知らん人がおりますから、この地図を見て、あしたはこの人のところへ持っていくんだと、これを見て団員さんのところへ行くわけです。

このときの服装は、全くこのとおりの格好であります。こうした取り組みをする場合に、区から大分援助してもらいまして、ベスト、帽子、この笛、こういうものは区で買ってもらっております。それで、こういうような格好をしまして、夏の猛暑の中とか、冬の木枯らしの中も、かわいい児童の下校に少しでも役に立ってあげればと思って頑張っている次

第であります。

これからの課題として悩んでいることは、まず第一に、子供たちは私たちの言うことは聞きません、絶対。それで、下校時とか、勝手に列を飛び出したり、走って列から離れていく子供がおります。道路からはみ出したときは、笛を吹いて注意を喚起します。この笛を持っていますんで、この笛でピピーっと吹いて注意します。車が近づいても飛び出して、肝を冷やすこともございます。

第2に、横断歩道の信号が変わるときに気を遣います。前の友達におくれまいとしまして、信号が変わっても無理やり渡ろうとする児童がおります。勝手気ままに行動する児童がいますが、私たちが近くに付き添えば不審者が児童に近づかないということだけでもよしかなあというふうに悩んでいるところであります。

親御さんが、こういう自分たちの子供が、下校時、どのような行動をしているのか本当に知っておるんだろうかというふうに思います。それから、家庭でどんなしつけをしておるんだろうかということを思います。

1回、親御さん一人一人に、本当に聞いてみたいと思うんです。子ども会でも言うんです。1回、子ども会のお母さんたちも出てきなさいよと、1回立ち会いなさいよと言うんですが、なかなかそういうことにはつき合ってくれませんけどね。だから、家庭のしつけは本当にどうなのか、どういうことを子供に指導しておってくれるかということをつくづく考えます。

それから、柏森の小学校の生徒さんは、私はすばらしいと思うんですね。扶桑郵便局の近くの交差点で、学校から帰る子供たちによく出会います。そのとき、上級生が旗を持って先導しまして、一列に並んで帰ってきます。きれいに並べられます。そんな走っていくような子はおられません。時々、私たちと同じパトロールの方が付き添っておられます。その一連の行動と、西小の子供たちの行動を比べると、本当にうらやましい限りです。同じような子供たちの行動が、どうしてこんなに違うんだろうかなあと、いつも私は思います。

それから、先ほど余防隊の田中さんがおっしゃいましたように、子供たちは絶対挨拶をしません。まず挨拶しませんね。学校の門で子供たちに「お帰り」「お疲れさん」と声をかけます。それから、今、集会所は防災センターになりましたけど、防災センターの近くで別れるときに「気をつけて家まで帰りなさいよ」というような声かけをしましても、全く知らんぷりです。私たちが子供のとき、目上の者が言いますと、そんなことはなかったように私は思うんですけど、今の子はそういうふうに思いますね。

それから、私ども区民は、子供は区の宝だというふうに思っております。子ども会の子供たちが餅つき大会をやってくれと、スイカ割りをやってくれ、何々をやってくれということを言いますと、ふれあいの家というのがありますから、ふれあいの家とか老人会、千歳会、老人たちが一緒になって楽しんで遊んでくれます。そういうつき合いがあっても、子供たちは挨拶をしません。挨拶できないんですね。

こういう機会ですので、これから先生と団員との考え方をもう一度すり合わせをしまし

て、学校と地域のかかわり方について、いま一度考え直していく時期が来ているんじゃないかなあとも思っています。

それから、児童が元気に巣立ちます。中学校へ行ったりします。例えば新入学生、1年生は本当にかわいらしいです。もう入ったすぐは、「おはよう」「こんにちは」なんかも言うし、「お帰り」と言うと「こんにちは」と声をかけてくれますが、夏休みが終わりますと一切ない。上級生をまねするのか、一切もう知らん顔していますね。ですけど、こういう子供たちも、中学生になりますと、今まで挨拶してくれなかった子供たちが、向こうから「おじさん、こんにちは」とか言ってくれるようになってきます。そういう声を聞きますと、私たちがしておる安心・安全のパトロールも無駄ではなかったなあというふうに思います。子供たちの心に感謝の気持ちが多少残っておったんかなあというふうにも思っています、自分たちを慰めております。

きっと、この子供たちは、将来結婚して子供を持ちまして、私たちと同じ年齢になれば、ボランティア活動を進んでやってくれるというふうに思いますし、大いに期待したいと思っています。

最後に、ボランティア活動は、する側の人もされる側の人も、お互いのかかわりの中から何かを学び、吸収し合っていくことが大切であり、やりがいも感じるんじゃないかなあと思っています。

そういうことで、きょうの私の報告を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

【座 長】 ありがとうございました。

では、続きまして武田さん、お願いいたします。

【武田静雄氏】 垣田の武田でございます。

田中さん、伊神さん、それぞれ登校、下校の立場からお話しされましたんですが、私はちょっと視点を変えてお話ししようと思ったんですが、何か重複するようなところが多々出てまいりました。

子供の安心と安全を考えると一番いいのは、外から来る危険というんですかね、交通事故に遭わないように、あるいは誘惑等の犯罪に遭わないように、それなりに保護してやるというのが最も身近な方法だというふうに思いますが、少し視点を変えてみたいと思うんですが、子供たち自身から発生させるといいますか、子供たち自身が発生源になるような、全く安心・安全に反するような行動によって危険な状態を醸し出すというというのが、今、田中さんのお話の中にもございましたし、伊神さんのお話の中にもありましたが、あるんじゃないかと思います。それを少し取り上げてみたいと思うんです。

私、街頭監視をずうっと区長になってから、時々サボりますが、させていただいているんですが、その中で感じたことが二、三ございます。

班長さんは、確かに集団登校のときに、きちんと旗を持って先頭を歩いています。真っすぐ向いて歩いているんですね。それで、後ろからついてくる子がいるかななんてことは

全然お構いなしに、真っすぐ旗を持って歩いています。後からついてくる子たちというのは、子供同士でふざけ合ったり、肩を叩いたり、けんかのようなことをやったりしながら、ばらばら歩いていきます。それは、先ほど伊神さんのお話にもございましたけど、とにかくばらばらで歩いてついてくる。これは、一つは家庭のしつけの問題なんでしょうけどね。

鬼ごっこをしていて道路に急に飛び出して、ぼーんと車にはねられて、そしてそのはねた運転手さんは本当に悪いことをしたんでしょうかね。これはもう、明らかに子供たちのほうに問題があるような気がするんですよ。

これは、私が今、下校時のパトロールをやっているボランティアの女性の方に聞いたんですけども、言うことを聞かない。伊神さんの話にもありましたけど、本当に言うことを聞かない。もうどんどんおくらせていって、みんなと一緒にいけないぐらいに離れてしまう。ですから、2人いますから、1人の方が「ちょっと待って」と言っていたら、「おばさん、そんなこと待っていることないじゃないか」というようなことを言って文句を言う。本当に叱れば、「おばさんなんか関係ないよ」というようなことを言うてくる。全く、殴ってやろうかということを何回も思ったそうです。

これは、私自身が体験したことなんですけど、つい最近です。交通監視で立っていたときなんですけど、2人の3年生か4年生だと思うんですけど、そのぐらいの子が2人で追っかけっこしていました。ばあっと道路に、グリーンベルトのところを歩いていくのが本当なんですけど、そこからばあっと飛び出して道路の中央に出ていきました。そうしたら、ちょうど通勤途上にかかるもんですから、そこで車が急停止してくれました。で、事なきを得たんですね。さらに、私の立っている前に来まして、まだそれをやっているんですよ。そして、たまたま飛び出していったら、その追いかけられた子が転んだんです。転んで倒れたために、幸か不幸か、そのときたまたま車が急停止してくれましたので事なきを得たわけですね。これが、もし転ばずにそのまま飛び出していったら、恐らく僕の目の前でもって、あの子ははねられたと思いますよ。そのぐらい至近距離でもってとまったんですよ。それが、さらにずっと続いているんですね。私どもで街頭監視をやっている一人の人が、かなり60メートルぐらい離れたところで立っているんですよ。その後、その方にも一喝されているんですよ。それでもまだふざけてやめない。

これは、もう資質の問題というか、家庭のしつけの問題どころじゃなくて、何か地域も学校も家庭も、みんなで考えなきゃいけないような問題じゃないかなというふうに私は思いますよ、皆さんどういうふうに思われるかわかりませんが。

これは、今、伊神さんからお伺いしたお話なんですけれども、下校時にけんかをしていて、跳び蹴りをやったそうですよ。跳び蹴りされたほうの子供は、もろに受けて、縁石のほうに吹っ飛んでいったそうです。縁石に、既にあおむけに頭を打つ瞬間だったそうですよ。たまたましょっているランドセルがずれて、縁石と頭の間にクッションになったもんですから、大事に至らなかったと。こういうお話を、実際にパトロールされている伊神さんから聞いたことがあるんですよ。僕はそれを聞いて、本当にぞっとしましたね。これは

垣田の子だそうですよ。

それから、さらに、私は集団住宅の1階に住んでいるんですが、4階建ての建物なんですよね。外壁に配水管が出ているんですよ。その配水管によじ登って、4階までよじ登ると、そういうやからがいるんですよ。これはさすがに、その母親にきつく叱ったことがあるんですけど、子供というのは本当にどこでいつ変なことを、何をやるかというのが全く予測が付きませんしね。しかも、小学校3年生、4年生となったらすごいすばしっこいですからね。我々が注意したところで、あるいは大声を出したところで、全く無視ですからね。これは、親ももう少し反省してもらおうようなことが多いんじゃないかというふうに私は思いますが、どうでしょうかね、皆さん。

隣に校長先生がいらっしゃいますけど、学校でも、我々の子供のころというのは、学校の先生が一番怖かったもんですよね。ですから、「先生に言うぞ」というとしゃんとなったり、あるいは「お父さんに言うよ」なんて言ったら、きちんと行動が改まったということがあと思うんですけどね。今の子供たちというのは、非常に何か伸び伸びとして、それは結構ですけど、反面、子供たち自身から発生させるといいますか、そういう危険因子というか、いわゆる発生原因というんですかね。そういったものに対して、もう少し私たちは深く考えてみる必要があるんじゃないかと思いますがね。いかがでしょうか。以上です。

【座 長】 ありがとうございます。

それでは、続きまして岩田先生、よろしくお願いします。

【岩田校長】 こんにちは。西小の岩田でございます。

本当に日ごろから、登下校にかかわる安心・安全な取り組みに対して、いろんな方々に御協力をいただいております。登下校だけではなくて、それ以外にも西小の子供たちや学校のほうにさまざまな形でボランティア、あるいは支援をしていただいておりますので、この場をかりまして感謝を申し上げます。どうもありがとうございます。

きょうたまたま、朝、テレビを見ておりましたら、KYということが出てきました。ごらんになった方も見えるかも知れませんが、空気が読めないというKYではなくて、危険を予知するKY、そんな企業の取り組みが紹介されておりましたけれども、西小学校の、きょうのテーマであります安心・安全な登下校にかかわるいろんな取り組みをしておりますが、その中で、見守っていただく方々、それから道路等、安全な条件整備等もありますが、けれども、子供たちのほうに危険を予知する、そんな能力を何とか教育という立場の中で教えていけたらなあということを思っております。

その取り組みの一つとして、子供たちへの安全教育というか、安全講習会というようなものをやっております。ことしで3年目になりますけれども、1年生全員に対して、連れ去り防止教室というのをやっております。愛知県警に防犯活動専門チーム「のぞみ」という部署がありまして、その方々をお呼びして、1年生の子供たちにどんなふうにとすると連れ去られないのか、大声を出すとか、あるいはこんなところに気をつけよう、劇なんかを

やっただきながら、子供たちへの注意を喚起するような授業をしております。この「のぞみ」が最近本当にいろんなところでお呼びがかかるようですので、本年度から2年に1回しか来ていただけないというようなことになりまして、本年度はたまたまセコムさんのほうの「セコムこども安全教室」ということで、同じような内容でやっただきました。

それから2つ目、これは交通安全教室の一環として、自転車ですけれども、先ほど古川さんから、本校の体育館で自転車のシミュレーターを使ったという取り組みを紹介していただいていたけれども、あれと同じものを江南自動車学校の方に来ていただいて、これも2年生全員対象に、自転車の乗り方教室というものをしております。

先ほどの1年生、2年生の取り組みですけれども、これについては学校公開日を兼ねてやっておりますので、保護者の方にも一緒に授業を見ていただく、あるいは受けていただくという形をとっております。

それから2つ目、今、前に持っていてありますが、大口西小ハザードマップ、校区内の地図の中に、いろんな危険な場所等がありますので、こういうようなところをちょっと注意しましょうということで、ちょうど子供たちが毎日出入りする脱履、靴を脱ぐところですね。ここに上げて、視覚的に捉えるようなふうにしてありますし、年に4回、通学路点検ということで、自分たちが毎日登下校するところを教師、通学班の顧問と一緒に歩きながら確認をしていくということもやっております。

あと、登下校にかかわることで、先ほど通学路のところでどんな場所が危険かということで、ああいうハザードマップをつくっておりますが、それ以外に、ちょっと条件を整えたほうがいいなあという場所については、PTAさんと協力しながら、年1回、通学路に対する要望を出しております。本年度については7カ所を出させていただいております。先ほど出ておりました徳林寺さんの参道前のところも、結構、朝たくさん車が通りますので、横断歩道がありますので、そこをちょっとカラー舗装していただいて、横断歩道があるということがわかりやすいようにということ。あるいは、通学路を一部手直しをしたので、そのところに横断歩道をつけていただきたいということも含めて7カ所、PTAの方々と学校で通学路の条件整備の要望を出させていただいておりますが、今年度については7カ所とも、ちょっとすぐというわけではなくて、条件がついて、回答をいただいております。いろんな条件があって、設置をしていただくのが難しいのかなあと。横断歩道については、一時停止の規制があるところでは、なかなか設けるのは難しいというような回答もいただいておりますが、これは粘り強く要望は出していききたいなあということを思います。

あと、これは登下校の防犯にかかわることになるかと思いますが、子ども110番の家については、たまたま広報に平成24年の6月号の広報「おおぐち」で、通学路子ども110番の家ということで、大口町では子ども110番の家が39カ所、そのうち西小校区が12カ所、この子ども110番の家については、江南警察署から委嘱されていると。それ以外に、社団

法人愛知県自動車整備振興会、大口町で子供たちを守る車屋さんということで16カ所あるそうですが、西小校区には1カ所ありまして、合計13カ所、子ども110番の家ということでお世話になっております。

あと、先ほども少し出ておりましたけれども、PTAさんの活動のほうで、登校の見回りということで、一番子供たちが通学するところで危険な場所の一つが、やっぱり徳林寺前かなあと。そこについては、先ほど余防隊さんのほうで毎週木曜日に立っていただいておりますが、保護者の方については、あそこは毎日当番を組んでいただいて、2名立っていただいております。ただ、御家庭の事情等で立っていただけない日もあるようですけれども、それ以外に、毎週月曜日になりますけれども、ヴォルテージさんの押しボタン信号のところや、ほかあと数カ所、保護者の方に登校を見守っていただく場所も設けてあります。

あと、先ほどからいろんな見守り隊、余防隊の方から御指摘をいただいている通学班でございますけれども、本当にいろんな子供たちがいますが、通学団全体として、年に4回、通学団のいろんな問題点等、集会を設けて話し合っておりますし、ちょうど1月から1カ月間かけて、登下校がうまくいくように、毎日班がまとまって来たか、班長がちゃんと指導しているかということで、脱履のところに、できたら青マーク、普通だったら黄色マーク、だめだったら赤マークということで、それぞれの班ごとに毎日の登下校の様子を振り返る、そんな取り組みもしております。

それから最後になりますが、「インフルエンザ風邪だより」というものをお手元に配らせていただきました。

インフルエンザ、風邪ですけれども、本校、ここ3年ぐらい、3学期の間、インフルエンザ、風邪がはやりますので、週に1回、学校のインフルエンザ、風邪でどれぐらい休んでいるかというようなことを保護者の方にお伝えしておりますが、せっかく毎週出しておりますので、その中に学校の行事だとか、あるいは気になっていることを書いて、保護者の方にお出しをしておりますが、おととい、21日金曜日の日に出したものをお手元に配らせていただいておりますが、登下校ということで3点、ちょっと書かせていただきました。

先ほどから、いろんな方々から西小の子供たちのさまざまな面の御指摘をしていただいておりますが、そこに通じる部分もありますので読んでいただければわかりますが、ちょっとかいつまんで、1つ目、先ほど急に飛び出るとか、なかなか交通安全の意識が低いというような御指摘をいただいております。学校のほうも、場面に応じて、あるいは何かあったらやっぱり子供の命にかかわりますので、いろんなところで取り組みをしておりますが、どうなんでしょうか。最初に書きましたけれども、子供たちが道を歩く、道路を歩くという経験が、昔の子供よりは少なくなっているんじゃないかなと。保護者の方が、例えば塾へ行くということになると車で乗せていく、自転車に乗せていくというようなことが、保護者の方にとっては、こういう時代、こういう交通事情なので、一人で行かせるよりはということで、車や自転車等に乗せられる場面がふえてきていますが、その反面、子供たちが道路を歩く中で、ここが危険だ、こんなところが車のよく通るところだとか、そうい

うところが身をもってというか、体験的に道路を渡るという経験が少ないのかなと。だからこそ、先ほどKYというお話をしましたけれども、学校のほうでもっともっと交通ルールも含めて、危険、そういうことを教えていかなければいけないのかなあということを思います。

ただ、これについても、学校だけの問題ではなくて、保護者、御家庭や地域の皆さんと一緒にというか、御協力を得ながら進めていけたらなあというふうに思います。余り、大人のほうががちりこうだよというよりは、子供が旗が上がったから渡るんじゃないで、旗が上がっても、やっぱり自分で左右を確認する、そんなこともやっぱり教えていきたいなあというふうに思います。

それから2つ目ですけれども、今、子供たち、集団ということがなかなかできにくい。人と遊ぶ、ましてや異年齢の子供たちと遊ぶ、年長の子が年下の子の面倒を見る、下の子が上の子の言うことを聞くというような場面が少なくなっているなど。それは、社会のさまざまな変化、やっぱり一番大きいのはゲームとか、塾通いをしているから遊べないとか、いろいろ理由はあるとは思いますが、子供の人間関係能力や社会性というのが背景的に落ちているのかなと。そういう子供たちが、集団で固まりになって登下校をするというのが難しい時代になったなあ。だから、そういう子供たちの背景がある中で、どう集団で登下校するか。これは、ひいては学級集団という問題にもつながっていくところなんですけれども、群れというか、集団をつくっていく、そこら辺の難しさもあるなあと思います。

だから、地域や家庭の中で、いろんな人とかかわる場面が少なくなった分だけ、学校という場の中で人とかかわる体験をしていく、その1つが、特に異年齢にかかわるのが登下校なのかなあということを思います。

3つ目ですが、安心パトロール団、余防隊の方、先ほどから挨拶ということを言われました。本当に挨拶、これは社会性にかかわること、あるいは道徳性にかかわることになりますが、これは学校のほうでもっともっと取り組んでいきたいなということと、3つ目に書きましたけれども、本当に言うことを聞かないとか、あるいはこの便りに書かせていただいたことは、安心パトロール団の方が子供に注意をされた。そうしたら、保護者の方が逆に叱っていただいた方に対して逆ギレをされたというようなこともあるということで、子供たちに対してどう接していけばいいのか、どう対応していけばいいのか。そんなことについては、登下校のみではなく、人とかかわること、あるいは人に感謝をしていく、人の話を聞く、そんなことを、安心・安全というきょうのキーワードから離れて、子供たちの教育というか、学校の取り組みとして、もっともっと進めなければいけないなあということを思います。

済みません、大分長くなりましたが、以上でございます。

【座 長】 ありがとうございました。

時間もかなりオーバーをしております。町長、あるいは町の職員の発表については、こ

れからパネラーの皆さんの話し合いの中で、また述べていただきたいというふうに思っております。

早速これから、今発表していただいたことにつきまして、パネラーの皆さん、あるいは会場の皆さんと意見交換をしていきたいというふうに考えております。

時間がかかなりオーバーをしておりますので、私のほうで少し整理をさせていただきたいと思います。

今、何人かの方のお話を聞いている中で、学校の先生、あるいは活動してみえる皆さん方が集まってこういう話をするという機会がほとんどなかった中で、こういう機会があって、ここではっきりしてきたことが幾つかあると思えます。

1つは、子供が自分みずから判断をして、どう安心・安全を確保するのかというようなこと。あるいは、そうしたことを一体誰が担っていくのか。学校なのか、家庭なのか、あるいは地域なのかというような問題。そうしたことを、きょう少し、テーマを絞って話を進めたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、今、岩田先生のお話を聞いて、田中さん、いかがでしょうか。いろいろ解決すべき課題があるということで提案をいただいたわけですが、学校としても今のお話のようなことがあるということの中で、例えば田中さんは、そういうお話を聞いて、どんなふうなお考えをされておるのか、どうでしょうか。

【田中英郎氏】 今、岩田先生のお話がありましたが、私はずうっと関連して思うんですけども、確かに子供の安心・安全を守ることが基本的ではございますけれども、ともすると、どうしても危険のリスクを回避する余り、過保護になり過ぎているところがないかなあ。

例えば、私どもは登校時ですけども、下校時のときに、今毎日、私の家の前もボランティアの方が引率してやっておられます。本当に自分たちで判断して、この横断歩道は危なくないから渡っていいのかどうか。あるいは、道路側にはみ出したら車にひかれやすくなるとか、確かにその兼ね合いが難しいと思えますけれども、ちょっと子供、子供、子供と、ちょっと私も個人的な感情を申し上げて僭越ですけども、ちょっと過保護になっているところがあるんじゃないかなあということで、ボランティア活動が介する度合いというのも、やっぱりただ「おい、出ていかん」「こら、こら」と言うだけやなしに、こういうときなこうだよといって、やっぱり誘導する側、ガードする側もちょっとそういうふうな考え方で接したらどうかなあというようなことも思えますけれども、そのあたりはいかがでございましょうか。

【座 長】 接し方の問題もあるということですけども、いかがでしょうか。

【田中英郎氏】 過保護という言葉が悪いですけど、やり過ぎ……。

【武田静雄氏】 そうですね、全く私も同じ意見ですよ。本当に過保護だと思いますよ。車が来たら車をとめて、児童を誘導して安全に歩かせるなんていうのはね。子供自身が、先ほどの先生の中にあつたことで、やっぱりもう少し交通ルールというのを徹底して教育

しないとしようがないと思いますよ、これ。もうちょっと、ここは学校の通学路だよと言っているんだから、ここをきちんと守らせないとだめですよ。

ましてや、ふざけて登校するなんてもってのほかですよ。それと、班長ももう少しきちんと、後ろを見て、後ろからちゃんとしてくるのかどうかというのを確認すべきだと思う。班長失格だと思いますよ、僕。せんだってのやつは、本当に班長は真っすぐ前を見て、ずうっと歩いているだけですよ。後ろなんて、ごちゃごちゃ何をやっているか、全く関心がないんですよ。そういうのは、まずいと思いますね、本当に。

【田中英郎氏】 ですから、いろんなこの諸問題も、いつも家庭、父兄の方、ボランティアの人間、それから学校の先生、例えばですね。そういうところでいつも、いわゆる3者が合同でいろいろ意見交換し合う、情報を共有し合うと、そういうのを基盤に置いてやっていくことが大事なかと。

先ほどそういうことを注意したら逆ギレされちゃって、叱られちゃったと。どうして叱られなきゃならんのか。その対応の仕方がまずいから、叱られておるんですよ。それは事前にもう少し、いわゆる3者でいつもその情報を共有化して対応していれば、少しでもそういうところは理解していただけるんじゃないかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

【座 長】 今、田中さんのほうから家庭、あるいは保護者の方、それからボランティア、それから学校との3者で、意見交換とか情報の共有が必要ではないかということですが、そうしたときに、どんな形でこれを取り組んだらいいのかなあというようなことを少し考えるんですが、そのあたり、近藤さん、いかがでしょうか。

【近藤喜昭氏】 非常に難しい問題だと思うんですね。

私、個人的な意見で申しわけないんですけども、保護者の方々が余りにもいろんなことを期待し過ぎじゃないかというふうに思うんです。ボランティアの方がやっておってくれるからいいんだという考え方が、私ぐらいの年と思うと大分違うんじゃないかなというふうに感ずるところですね、これは私見でありますけれども。

ですから、子供会の方々とよく話し合うということが、やっぱり一番の解決につながるんじゃないかなというふうに感じます。以上です。

【伊神英臣氏】 ちょっと戻るかもしれませんが、親御さんたちは、私たちが西小パトロールをやっておることも知らん人もようけおるんですよ。私たち、さつきの場合は4月に親御さんも集めて、こういうことをやりますから気をつけてくださいよということを子ども会を中心にやりますけれども、ほとんど出てこないです。たまにやりますと、こんなことやっておるのかなあと思っておる親御さんは多いと思うんです。

それからもう1つ、下校も集団生活だと思うんです。下校することも集団生活、登校する、一緒に行くのも集団生活だと思うんです。ただ、集団で帰ってくるのに、みんなが35分に一緒に帰ろうとします。そうすると、親御さんが一緒に連れていく、もうその場で。連れていく人がおるんですよ。せっかく例えば15人の生徒が全部で集まって帰ろうとして

おるのに、黙って連れていってしまうんですよ、こうやって自動車に乗せて。そうすると、実際我々は、何人なんだということも気にかかりますよね。それで、私たちへは全然そういう知らせがないんですね。集まったよとだあっと出るだけで、そうするとその間にばあっと連れて帰っていくんですね。親御さんのしつけも悪いし、親御さんの考え方というか、そんなこと5分10分も早う帰らせてどうなるんだと。一緒に帰ってから塾へ行かせるなら行かせればいいと私は思うんです。どうして連れていくかわかりませんよ。だから、そういう親御さんの子供に対するそういうことが、私はちょっと理解できないし、やっぱり何と言ったって、まずは親御さんのしつけだし、親御さんの考え方が変えないといかんと思うんです。

【田中英郎氏】 関連して、私も思いますけど、朝の登校時に、校長先生や教頭先生がずっとおくらしている子供を待っていて、そして登校のときに一緒に行くようにやっておられます。本当に御苦労さまだなあと思いますけど、親はどうなっているのと。毎日そんなことを学校の先生、校長先生にさせて、そうしているのか。どうしたらいいかもわかりませんけれども、本当に不思議で怒れて仕方がないですね。

【座 長】 ありがとうございます。

今、この議論の中では、子供の家庭の中の話といいますか、保護者の方の対応ということではいろいろお話が出ておりますけれども、問題を解決していく上に必要なことは、そうした問題を、仮に家庭にそういう問題があるとした上で、実際皆さん活動されているわけですから、その活動する中で、どういうふうにそうした問題を解決していく必要があるのか。

例えば、今皆さん、毎日子供たちが危ない行動をとっているよというのを目の前にしているわけですが、それではそうしたことを、どういうふうに改善できることなのかといったところを、お話がしていただければありがたいかなと思います。

【武田静雄氏】 僕は、これはひとえに学校で教育していただくしかしようがないと思いますよ。自分の行動を子供が自分でもって判断するようなことを教育するというのは、学校しかないじゃないですか。各家庭になんて任せたら、また同じ結果になっちゃうでしょう。全部集めて、それとも町でやりますか、そんなこと。町で何かスクーリングでもやって、集めてやりますか。町では無理でしょう、恐らく。一番子供が集まりやすいというのは学校じゃないでしょうか。学校で、ちょっと先生、悪いけど、ちょっと一肌脱いでいただいて、そういう教科なり時間なりをつくって、交通安全ルール教室とか何か、そんなことを考えていただいたほうが早いんじゃないですか。どうですか、町長。

【座 長】 一肌脱いでもらったらどうかということでお話があったんで、先生のほうから何かありましたら。

【岩田校長】 本当に学校でできることで、まだまだ不十分ですけども、先ほどお話しした1年生の連れ去り防止教室とか、2年生の取り組み等々を中心にしながら、学校で取り組まなきゃいけないようなことについては学校でやらせていただきますけれども、やっ

ぱり学校だけだとどうしても不十分というか、行き渡らないところがありますので、やっぱり家庭、地域の方にも御協力いただけるとありがたいなということは思います。

だから、先ほど中地域さんの11月の自転車教室については、2年生でシミュレーターを使った自転車教室はやっておりますけれども、ああいう実地のものについては、なかなか学校現場で時間のやりくりをしてやっていくということができにくい。あれもこれも、こんな授業もやらなきゃいけないという中で、せっかくいいスタートを切っていただいておりますので、ああいうところとちょっとタイアップさせていただけるとありがたいなあということを思います。

【古川建治氏】 今、校長が自転車教室についてということで、校長さんのほうへ何人ぐらい生徒はおるのかということで、今回小学生5年生、6年生というのを対象にしましたね。

西小校区の5年生、6年生というのは約160名相当、あの時点では見えるみたいに聞きました。ただ、地区へ戻りますと、子ども会に入っている人数というのが、小学校5年生、6年生ですよ。これが100名そこそこで、六十何名相当が子ども会へ入っていないという状況と、これは一応さつきの関係でお聞きしたんですが、子ども会の役員が回ってくるで、子ども会に入らないお母さんが多いと。これは子供は全然関係ない話ですよ。要するに、母親は子ども会の役員になると、1年間、いろいろと苦労せないかんからやりたくないという事実が出てくるわけですね。

私がわからんのは、校長先生もちょっといろいろと悩んでみえるかと思うんですが、西小小学校区のPTAですね。PTAという組織が、みんな1年生から6年生までの保護者といってもお母さん方が主体だと思いますが、ここら辺との私ども中地域の自治組織は、そのPTAさんも大いに御協力を願って進めたいなあという考え方を会長も私も持っていて、その子ども会さんは子ども会さん、PTAはPTAだ。子ども会さんについては、もう今言ったように当たらせてもらっていますから、こうやってお願いしたり何かできるが、PTAさんにもちょっとこれから、どちらにしろ自転車教室をやるということになれば、今5年生、6年生をやったんだから、今の1年生が5年生か6年生にならんと対象にならんとすることは、かなりまだ5年、私どもは10年スパンでやらないかんかなと思ってはいるんですが、そういうことを思うと、結論を申し上げますと、私から見ますと母親の勝手なこと子ども会に入らないと。この辺も、行政区と子ども会というのがどういうふうにもうまく持っていくかというのも問題じゃないのかなと。それは、学校のほうもそれに対してどのくらい寄与できるかということも必要かとは思いますがね。失礼します。

【鈴木町長】 行政の長として一言だけお話をさせていただくというか、1時間40分、黙って聞いておりまして、今皆様方から出ているいろんな問題というのが、この自治組織というものをつくっていただいた一番大きな結論だと思っていただければありがたいかなあというふうに思っております。

と申しますのは、先ほどから皆さんのお話がいろいろ出ていますけれども、きょう私が

一番最初にここへお邪魔して、一番残念だったことは、西小学校に通っている子供さんを持った両親どちらかが、ここに本当に何人お見えになるかなあということを思いました。こういう活動をしているということは、地域でいろんな活動をしている人たちだけが知っている話であって、親御さんたちにとって言うと、何やっておるんだあの人たちはぐらいの世界でしか見られていないというのが現状であります。それを地域の中へ取り込んでいただくために、どうしても各区でやっていただける運動と、小学校区という一つの区切りの中で行われる運動とでは、両親に与える影響というのは物すごく違うと思うんですね。

それは何かというと、切り口が学校だからです。小学校なんですよ。小学校があるからこそ、初めて子供さんがある人たちが町がやっていること、区がやっていること、そして自治組織がやっていただいていること、それを理解をしていただくために、どうしても出てきていただかなければならない方たちというのが、やはりお見えになると思います。

もちろん、先ほど言われたように行政区だけでということになりますと、私が今度3月の何日に小学校の卒業式に出ます。その挨拶の中でお話をするか、もしくは入学式のときにPTAの皆さん方というか、親御さんたちにこういうことをやっていますよということをお話をするかしか、私に与えられた皆さん方にお話をするチャンスというのは、本当に少ないということになってまいります。

もっと言いますと、行政区が町として学校の中に入り込む、入って何かをするということは大変難しい部分があります。きょう教育長も来ていますので、もちろんそうなんです。

そして、きょうの話の中で一番耳が痛いのは、今言われる、校長が一番耳が痛いだろうというふうに思っただけならば、どう答えていいのか、そんなことを言っているのか悪いのかというようなことをやはり思っておると思います。

これは、一番最初、先ほどから伊神さんと田中さんたちがおっしゃっているのは、私たちの子供のころは、道徳の時間というのは月曜日の1時間目にありました。今までゆとり教育という一つの国が決めた方針の中で、道徳の時間というのはだんだん縮小されて、どっちかと言うと日本人の持っている一番大切な魂である隣人、そしてまた共存という部分を教えてくれるということがなくなってきたことにやっと国も気づいてくれて、ゆとり教育から、また違う教育の方針に変わってきたということも現実であります。

そしてもっと言いますと、この中地域というのは、一番やはり問題点が多い地域なんです。というのは何か。問題点というのは、失礼な言い方かもしれませんが、人口が多いんですよ。そして、新しく入ってみえた方が多いという点もあります。そしてまた、区で行われている行事というものが、いろいろなものを理解されない親御さんたちがたくさんお見えになる。また、その方たちが多い。そして、問題点に関しては、隣に住む人どこぞの人よの世界の人たちが多いという地域であります。

先ほどから言われるように、交通事故の問題や通学の問題、そして地域の問題、そして家庭の問題。

家庭の問題から言いますと、おととい、本当に今言われるように、ストーカー行為で、

白昼にピストルで頭を撃って人を殺せるという時代なんです、今。ところが、これは誰かがどこかで見ていたはずなんですよ、白昼ですのでね、駐車場なんで。それを誰も気にもせず、そのまま遺体としてそこに置いてあったということ、そこを考えていただけると一番よくわかると思うんですね。もちろん、この大口町だけじゃなくて、日本全国津々浦々いろんな市町村がございますが、その中でも同じような問題を皆抱えています。

ですけど、それに対してじゃあどうするのかということは、やはりこういう話し合いというのを各区じゃなくて、各自治組織の中で持っていて、そして宣伝マンとして出ていけということであれば、私はどこへ行ってでもこういう話はします。もっと言いますと、その言ったことが本当にだめであれば、何を批判されても別に構いません。

ただ、昔私たちは、餓鬼なんて言うと言葉が悪いですけど、子供のころに先生に殴られなかったやつのほうが少ない時代を生きてきました。何発殴られたかわからんぐらいで、そのような教育を受けてきました。

ただ、教育体制はもう変わっています。今、例えば校長がどこかの子供を1人ぶん殴れば、多分首が飛ぶでしょう。そんなことはもうできません。ただ、それをどう論していくのか、どう教育していくのか。また、ある反面、昔から郷の中で住んでみえる保護者の皆さんに聞くと、うちの息子は殴ってくれていいからおっしゃる方もお見えになるんですよ。うちの息子はどんだけ殴ってもらっても構わへんで、どんだけでも殴ってくれという話も、僕の耳にたまにお話しされる方、校長に言っておいてくれという話をよく聞かれるということもあります。

だから、どっちが正しいか、どっちが正しくないかというよりも、昔はギブ・アンド・テイク、与えるものがまた与えられるという、そういう精神があったものが、ギブ・オンリーになっている、与えることになってしまっているという今の世の中の体制を、自治組織の中でこういうことをやっているんだから、あなたたちも協力してください。できなければ私たちは知りません。なぜかという、ギブとテイクなんです。与えなければ与えられないということを親御さんたちにもわかっていただかないと、我々ここに集まっている皆さんたちだけでどんな問題も解決することはできません。そのための自治組織なものですから、そういう意味でいう安心・安全、これをキーワードにして、そして子供たちをキーワードにするということは、やはりその世代から教育をされて、初めて大口町というのがこれから何十年、本当にすばらしい町になっていけるんじゃないのかなあということを考えていただけるもとなればということで、この自治組織というものをつくらせていただいたという観点がございますので、ぜひ皆さん方でもう一度、きょうここに出てきたいろんな問題をどう解決するのか。もちろん、個人個人の考え方もあるでしょうし、そしてまたいろいろな意味での対応の仕方もあるでしょう。それを一方的に、先ほど武田さんが言われたみたいに、学校で教育してもらわな困るがやと、もちろん僕もそう思っています。

ただ、教育するにも、昔だったらぶん殴ってでも教育できたものが、ぶん殴って教育できないから、さあこれをどうするんだというような話になってくる。その中に、やはり問

題点があるし、また通学途中に伊神さんが「おい、何やっとる、おまえ」と言ってみたって聞かないとおっしゃるんですが、本来でしたら、てめえばかやろうで、そこでぶん殴られているということもありました。

そして、もっと言いますと、先ほどもちょっと伊神さんだったか、どちらさんが言われたか、さっき聞いていて、これが一番大切かなあと僕が思っているのは、班長なんですよ。班長になることというのは、小学校の中で、自分の組を束ねていくという意味での班長になる。あの黄色の旗をもらって、これをもらったときのうれしさというのは、責任感と、自分の班を守っていくという義務というものが、その子供に植えつけられるというのが一番大きなポイントだと思っています。

その班長が、先ほど言われるようにグリーンと黄色と赤というような形じゃなくて、子供社会の中に大人が土足で入り込むわけにいかないの、やはり班長の自覚を立てて、もうちょっと班長というのはこういうものだという教育はぜひ校長のほうからしていただいて、班長が持っている権限が何であるかということ、やはり子供たちにも教育をしてももらえるような場もつくっていく、これはできますよね、校長として。そういうものをやはりつくっていただいて、先ほどから言われる交通事故やいろんなものに遭わないようにしてもらえ。

もっと言うなら、連れ去りの問題もさっき出ていましたけれども、班長が目配っている、それを補佐するのが、伊神さんや武田さんや皆さん方が目配りをしていただける。そして、また周りの人たちが目配りをしていただけるための組織なものですから、そういう形のものを三位一体になって、そしてまた子供たちも踏まえてやっていただけるような形をとっていただければ、多分もう少し違った形でのまちづくりができていくんじゃないかなあというふうに思っておりますので、きょう皆さん方から御意見があったことをぜひ地域に持ち帰っていただいて、各地域と、そして各区と、それから地域の中で、もっと言うなら子供さんをお持ちになっている家庭の皆さん方、両親にぜひ出ていただけるような体制をつくっていただいて、ボランティアでやっていただいている人たちに、やはりその人たちが感謝をしていただけるということを持っていただけるような体制をつくることによって、子供の意識もだんだん変わってくるような気がしますので、ぜひその辺のところを御理解していただきたいなと思います。

もう1つ最後に、これだけお話をしたいことがあります。

今のお子さんを持っている親御さんが、一番大きい病院というと、ここら辺でいくと厚生病院に行かれると思うんですが、この間たまたまこんなことがありました。

厚生病院の事務長とちょっとお話をするチャンスがありまして、この間むちゃくちゃ頭にきたんだわという話をされたんですよ、僕に。たまたま知り合いだもんですから、何でという話をしてしましたら、本当にええかげんにしてもらわなアカンわという話で、何かと言いますと、治療が終わって薬を取りに来て、順番が遅いもんだから何やっておるのという話を、どうも治療を受けたお母さんがされたらしいんです。あんまり文句を言われる、

前に座っている薬を出すほうの女の子が怒られていたんで、事務長として出てきて、順番なんでお待ちくださいという話をしたら、その御婦人が言われたのは、あんたのところは私たちがここに来るでもうかっておるんでしょうと言われたらしいんですわ。ところが、今大口町は、中学校、小学校、幼稚園、要するに中学校までの子供さんたちに対しては医療費はただなんですよ。それが何かといったら、皆さん方の税金から出ているんです。その御認識を、その税金で補助を受けている親御さんたちが気づいていないという一番大きな問題だと。まあ頭にきたで俺はぼろくそに言ってしまったという話をしていました。あんたが出しているんじゃない、大口町から出てきている税金でおまえさんたち子供の治療をさせておるんで、誰がおまえさんに文句言われなにかんという話をしたということを事務長が言っておりまして、こんなことはあんまり他言していただくと困るんですが、そんなこともある。というのも、やっぱり認識の不足というのが、もっと言うなら伝達、そして広報は出していますけれども、それを読んでいないとか、いろんな意味で情報が伝わっていないという部分もありますので、ぜひこれから地域自治組織のお力をおかりして、そして皆さんを集めていただいて、そういう講演会等々をやっぱり開いていただきますことを心よりお願いをして、町長としての発言とさせていただきます。

【座 長】 時間がちょっと経過しておりますけれども、今のパネラーの議論を聞いて、きょうここに出席をされておる皆様の中で、何か提案とか御意見がありましたらどうぞ。

【質問者】 私は、今、西小学校の安心パトロールの代表です。余野、垣田、さつきといった中地域の余野に住んでいますが、当初は学校区、北、南、西ということでの話が来たわけですね。いろいろお話し聞きますと、紆余曲折があつて、中地域、竹田が大字が下小口ということで、今、北に入っておる。きょうの話は学校が中心ですわね。

それで、私は西小学校へ安心パトロールのほかに、御存じのビオトープを12年に立ち上げて、ずうっとまだかかわっています。さらには田んぼがありますね、西小学校に。これにもかかわって小学校5年生に教えた。さらには、ここに仲間が見えますけど、どこでも盛んなグラウンドゴルフ。私の余野地区は60名ばかり会員がおりまして、これもまた小学校3年生に1年間に12回交流しておるわけですね。したがって、子供、親御さんとの関連が非常にあるわけです。

この間も竹田の、ちょうど学校の下校が、西門から出るときは、竹田の方と一緒に出てきます、下島の地区はね。そんな関係で、私たちはこの中地域ができて、例えば防災のときにはどこへ行ったらいいんやということで、やっぱり大字が下小口地区の竹田だと。行政区の中はそうなっていますわね。そうすると、震災だ、防災だというときには、やっぱり区長の配下で動くじゃないか。

でも、これは竹田は、非常に北小学校は遠いというような話が出まして、今から私が言うのはおかしいですが、ここで新町長に訴えたいことは、やっぱり学校区域で3つに分けてもらいたい。さらに言うなら、北と南は学校の名前がついています。なぜ西小学校の西地域としなかったかと。あえて中、中だったらこの地区が中ではないですか、大口町の。

どうもなかなか私は解せんわけです。

それと、私が言えることは、この中に竹田の方は多分見えんと思います、きょうは中地域の懇談会ですからね。それともう1つ言えることは、地域の皆さんというより大口町の皆さん、この3つの組織の動き、一向に浸透していませんよ。きょう、ここである人と話をしましたけど、こういうことを始める前には、投票といいますか、国民投票じゃないですけど、総意をもって進めないかん。私もいろいろ区長の経験でやっていますが、大口町の先輩の方とよく話をしますが、そういう方々も非常に認知されておられないと。

きょうのこの懇談会と話が違って申しわけないですけど、これは原点に返ってもらって、たまたま西地域の中地域を竹田がということですので、そういうことで十分、町長さんお願いします。

【座 長】 いろいろ御意見いただいてありがとうございます。きょうの主点は、地域組織そのものではなくて、最初にも申し上げましたように、子供の安全・安心を守るというテーマで進めさせていただいておりますので、またその話については、後日お話を伺うこともできると思いますので、よろしくお願いいたします。

ほかに、どうぞ。

【質問者】 私は、まかせてネットのメンバーでもありまして、あと愛知県交通安全活動推進員をしております堀田と申します。

きょうは一応交通安全がテーマなんですけれども、私の場合は愛知県の交通安全全般にかかわっておりまして、特に大口町の住民でもありますので、大口町の交通安全に特に力を入れていきたいと思っておりますけれども、御存じのように愛知県は交通事故ワースト1なんです。その中で、大口町が交通事故の発生率も非常に高く、非常に危惧されている状態なんです。

でも、交通事故というのは、加害者にもリスクがありますけれども、被害者にもリスクがあることなんです。車と自転車、歩行者の場合は車が加害者なんですけれども、自転車と歩行者の場合は自転車が加害者になることが多分にありまして、特に最近では新聞にも載っていますけれども、自転車が加害者になって、多額の損害賠償とかを請求される場合もありますので、そういったことのないようにするにはどうすればいいかといいますと、加害者も被害者もお互いに交通ルールを守って、そういった状態にならないようにすることが特に大事ではないかなあと考えております。

これ以上お話しするとまた長くなりますので、とりあえずそういったことだけお話しして、子供たちだけではなくて、高齢者も交通ルールを守ということを心がけてやっていただきたいと思います。

【座 長】 ありがとうございます。

先ほど手を挙げられた方も見えますけれども、…どうぞ。

【質問者】 西小学校の岩田校長先生、それから町の関係者の皆さんにぜひお願いしたいことがあります。それは何かといいますと、中学校で挨拶ができておって小学校で挨拶が

できんというのは、絶対的におかしいです。そういう意味で、西小学校挨拶運動というのをぜひスタートしていただきたいと思います。もちろん、これは子供さんがルールを守る第一歩、スタートになるんじゃないかなというふうにも思います。

父兄の協力、PTAの協力、それから地域の協力も要ると思いますけれども、挨拶運動をぜひやっていただけたら、よりいい中地域になるんじゃないかと思います。よろしくお願いします。以上です。

【座 長】 ありがとうございます。

申しわけありません、時間も15分ほどオーバーしておりますので、ここで意見交換のほうを終了させていただきます。

ここで少し私がまとめということで、お話をさせていただきます。

きょうが実は、地域懇談会、本年度の最後ということで、3回目であります。

この3回を通じて明らかになったことは、まさに今ここで議論をされたことであります。いろいろな立場からいろいろな意見が出て、いろんな問題があるということ。これを今まで統一的に話をするができる機会がなかったということが明らかになってきたということ。

ですから、これから必要なことは、ここで明らかになった問題、例えば子供が主体的に安全を確保するにはどうしたらいいか、あるいは挨拶の問題、それから目上の人に対しての対応とか、いろいろあるわけですが、そうした問題をこれからどうしていくのか。それこそ学校、保護者、地域ということがあるかなあということを思っております。

先ほど町長の話であった中で、私が気がついたのは、そういう中でやはり役割分担を明確にしていく必要があるのではないかなあというふうに思っております。班長の自覚について、これはぜひ学校でという町長の話の中で、やはり役割分担がそれぞれある。地域には地域、家庭は家庭、学校は学校という役割分担があるんじゃないかなと。そんなことを3者で、あるいは行政も入って話ができれば、解決の糸口が一つ一つ出てくるのではないかなあ、こんなふうに考えております。

実は先ほどもどなたかの発言でありましたが、愛知県、全国で交通死亡事故が一番多い県であります。ですけれども、学校の子供さんの登下校での事故というのは、ないことはないと思うんですが、大きくクローズアップはされていないわけですね。やはりお年寄りの事故が多いというようなことがあるわけですが、これはとりもなおさず、いろんな問題があるにしても、ここに見える活動をされている方、あるいは学校の先生の対応によって事故が防がれているのではないか、こんなふうにも考えることができるのではないかなと考えております。

そういう中で、きょう本当に3回を通じて、子供を育てる、子供の教育といいますか、そういったことを学校だけに任せるのではなく、あるいは地域だけに任せるのではなく、あるいは家庭だけに任せるのではなくて、3者で考えていく中で解決の糸口が見つかっていくのではないか、こんなふうに考えましたので、よろしくお願いします。

す。

本日は、大変長い間、御清聴いただきましてありがとうございました。（拍手）

【司 会】 長時間にわたり、ありがとうございました。

最後に皆様にお願いとお知らせがございます。今回の地域懇談会について、御意見を承りたいと思います。まことに恐れ入りますが、受付でお渡しいたしましたアンケート用紙に御記入をいただき、お帰りの際に御提出くださるようお願いをいたします。

それから、お手元にチラシをお配りいたしました。3月1日土曜午後1時から、町民会館ホールで「あなたが主役！22000の新たな挑戦」と題したまちづくり協働フォーラムを開催いたします。ぜひとも御出席を賜りますようお願いを申し上げます。

【鵜飼地域協働部長】 最後に、ちょっと今回、しゃべる時間がなかったものですから、前の北と南でしゃべらせていただいて、ぜひともお伝えしたいことだけ、2点ですけれども、地域協働部からお知らせのほうでお聞きください。

1つは、来年度、江南警察署の指導のもとに、防犯カメラを設置させていただきます。これは、大口町が平成24年におきまして、愛知県内の町村のレベルで人口1,000人当たりの犯罪率が県内でワースト3だったということもございまして、江南警察署のほうからぜひ協力をということで御案内がございましたので、来年度、防犯カメラの設置を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

2点目が、戸別受信機の件でございますけれども、今皆様のおうちに戸別受信機がございますけれども、それはアナログの受信機になっております。それをデジタル化という形で随時交換をさせていただきますので、地域ごとに、ことしから3年間で変更をお願いしていきますので、よろしくお願いいたします。

きょうはどうもありがとうございました。